堀川 かくれ 産業・土木遺産

矢田川伏越 明治末の土木工事風景

写真に撮られた明治の土木工事

延宝４年（1676）に御用水が矢田川の川底を流れ、庄内川の水だけを名古屋城の堀に流すよう改造された。木造の初代矢田川伏越（ふせこし）の誕生である。明治10年、犬山と名古屋を結ぶ航路をひらくため、黒川が開削された。この時の伏越も木造で２本あり、１本は舟が伏越の中を通るようになった。
さらに明治44年5月、明治になって開発された「人造石」工法による大改築が行われ、幅2.1ｍ、高さ2.6m、延長169.6mのトンネルが二連誕生した。43年から始まったこの工事は、現場風景を写真撮影されている。その貴重な記録から、110年前の土木工事の姿を紹介する。

❖ 矢田川伏越の変遷
最初の伏越建設　延宝４年（1676）
　長さ：176.5ｍ　幅：2.7ｍ　高さ：0.9ｍ
明治10年　黒川開削で、舟が通れる伏越を建設
明治44年　明治の新技術「人造石」で改築
　長さ：169.6ｍ　幅：2.1ｍ　高さ：2.6ｍ
昭和30年　矢田川の河床低下により鉄筋コンクリートで改築、舟は通行不能に
昭和53年　三階橋ポンプ所建設により鉄筋コンクリートで改築

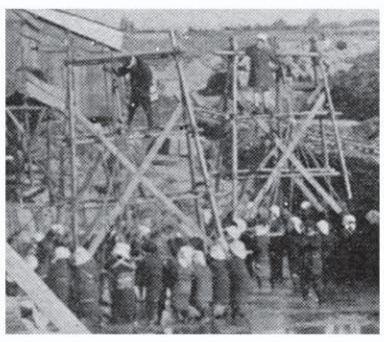
【守山区側】

矢田川の中央で仕切り、最初に守山区側の工事を行った。

湧水が多くポンプを設置

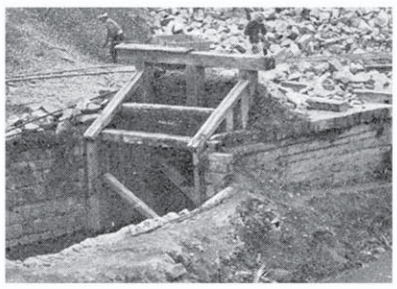
現場への運搬はトロッコ

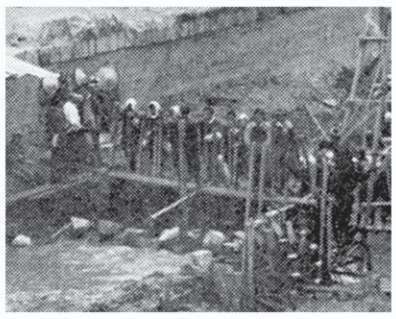
セメントは樽で輸送

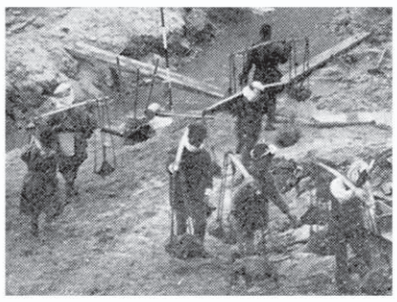

「よいとまけ」で杭打ち
作業員は女性たち

【北区側】

守山区側が完成すると北区側の工事が始まる。
右端には完成した守山区側の伏越先端が見えている。上部左手に見える橋は三階橋である。


木造の旧伏越


足踏水車で排水


資材は天秤棒で運搬